

普通期水稻の後期管理について (特別栽培米・レンゲ米・JA米)

1. 生育概況・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P2

2. 今後の管理

(1) 水管理・・・・・・・・・・・・・・・・ P3

(2) 雑草防除・・・・・・・・・・・・・・・・ P4

(3) いもち病防除・・・・・・・・・・・・ P5

(4) 紋枯病対策・・・・・・・・・・・・ P6

(5) ウンカ類対策・・・・・・・・・・・・ P6

(6) イネカメムシ・斑点米カメムシ類対策・・ P7

注意：穂肥、雑草・病虫害防除に使用する肥料や農薬は、特別栽培米やJA米で異なりますので、資料や暦をよく確認して下さい。

(7) 穂肥・・・・・・・・ P8～P9

《稲作情報テレフォンサービス》

★ 栽培時期にあわせた、病虫害、管理作業でご活用ください。
～病虫害発生予察などお役立ち情報がいっぱい～

TEL 0948-29-3939

1. 生育概況

○育苗

育苗中のいもち病やごま葉枯れ病の発生は少なく経過しました。しかし、1日の温度差が20℃弱あるなど、温度差の大きい日が数日あったため、カビやムレ苗が発生したところがありました。

○田植え

普通期水稻の田植えは、夢つくしで5月下旬～6月中旬、元気つくし、ヒノヒカリで6月中旬～下旬を中心に行われました。降雨が多く、梅雨入りは5月29日と平年より早いこともあり、田植は順調に行われました。湛水期間が短かったほ場、あるいはスクミリンゴガイの食害軽減のために入水が不十分だったほ場では、雑草が発生しています。また、除草剤の田植同時処理で、田植後の植穴の戻りが悪いほ場や田植後の湛水が不十分なほ場で、除草剤の薬害が発生しました。

○生育初期～中期

降雨日が多いため生育はやや徒長傾向ですが、茎数は十分確保されています。また、気温はやや高く経過していますので、生育はやや早くなっています。

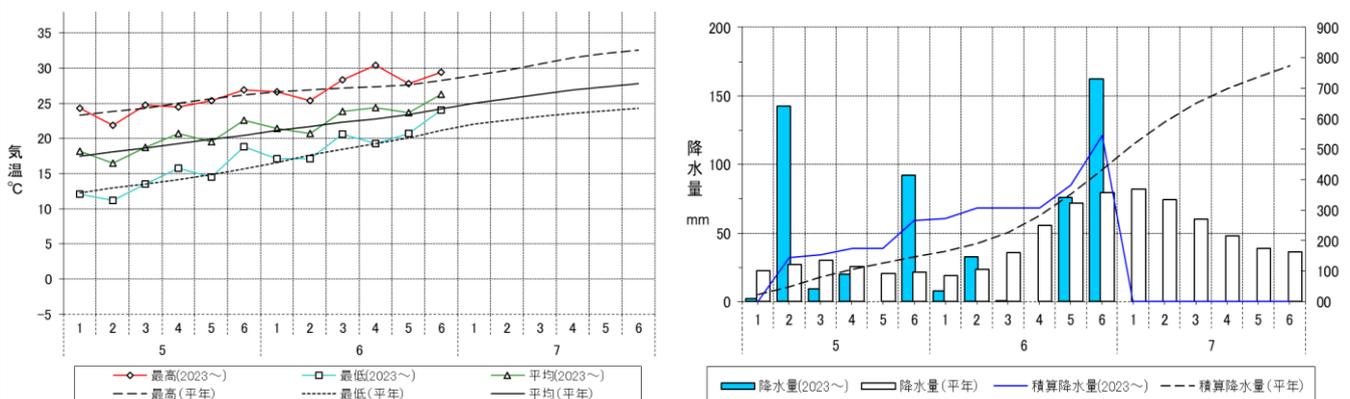
○病害虫

降水量が多く、深水となったほ場ではスクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）の食害が大きくなっています。昨年より被害は増えています。

いもち病については、7月3日時点では発生は少ないようですが、管内はいもち病の常発地であり、曇雨天が続いているため、今後発生が心配されます。置き苗の除去を徹底するとともに、発生を認めたら早急に防除を行いましょう。

ウンカ類については、飛来は遅く、飛来量は平年並のようです。今後の発生状況に十分注意しましょう。ウンカ類の防除情報については、発生に応じた防除時期を稲作情報でお知らせします。

気象グラフ（飯塚アメダス：2023年5月～6月、平年5～7月）



2. 今後の管理

(1) 水管理

○中干し

- ・用水が十分確保できる場合は中干しをしましょう。
- ・有効茎数（60株/坪で1株当たり20本前後）が確保できたら中干し開始。
- ・中干しの効果

① 倒伏防止（特に元気つくしは、倒伏防止のために遅れないように中干しを実施！）

② 過剰分げつ抑制

③ 土中への酸素供給（根の活力維持）

④ コンバイン作業をし易くする

- ・中干しの期間と程度

期間の目安：5～7日

程度の目安：田面がやや硬くて黒い状態、小さい亀裂ができる程度。

注意！）田面が白く乾くほどの強い中干しは根を傷め、葉いもちを助長する。乾きすぎる時は走り水を行う。（大きな亀裂は根を切るので×）



図 適切な中干しの例

○中干し後は「間断灌水」

- ・中干し後、最初の入水は、すぐに水はなくなるが、水は足さない。根痛み防止のため1日おく。
- ・その後、湛水期間を徐々に延ばしイネを水に慣らす。

※間断灌水の目安 『3湛2落』

入水(2～3日で自然に落水)



足跡に水がたまる程度で1～2日



○幼穂形成～穂ばらみ～開花期は「浅水湛水」

- ・幼穂形成期以降は水が必要。特に出穂前後1週間程度は湛水状態を保つことが望ましい。この時期に白乾させると不稔粒や登熟障害が発生する。

○登熟期（開花期以降）は「間断灌水」

- ・開花期以降は新たな根がでないため、根の機能を維持することが重要。

○落水は可能な限り遅く

- ・早期落水は充実不足、品質低下を招く。

台風時は・・・ 風が吹く前から通過後2～3日間は深水

・風による萎凋（しおれ）、葉傷み防止

（畦崩壊の恐れがある場合は浅水管理 → 台風通過後に深水）

(2) 雑草防除(補正防除)

○特別栽培米（夢つくし、元気つくし、ヒノヒカリ、レンゲ米）基準

※特に雑草が残っている場合は、以下の薬剤が使用できますが、箱施薬でフルスロットル箱粒剤を使用し、ウンカ・カメムシ対策を2回散布する予定の場合は、クリンチャーバスME液剤とワイドショット1キロ粒剤は使用できません。

残っている草	除草剤	10a処理量	使用時期
ノビエ	クリンチャーEW	落水処理 100ml/ 水 100~25L	田植後 20 日~ ノビエ 6 葉まで (但し収穫 30 日前まで)
	クリンチャー 1キロ粒剤	湛水処理 1kg	田植後7日~ ノビエ4葉まで (但し収穫 30 日前まで)
広葉雑草 (含 ホタルイ、 カヤツリグサ)	バサグラン液剤 (ナトリウム塩)	落水処理 500~700ml/ 水 70~100L	田植後 15~55 日 (但し収穫 50 日前まで)
	バサグラン粒剤 (ナトリウム塩)	落水処理 3~4kg	田植後 15~55 日 (但し収穫 60 日前まで)
ノビエ 広葉雑草 (含 ホタルイ、 カヤツリグサ)	※ クリンチャーバス ME 液剤	落水処理 1000ml/ 水 70~100L	田植後 15 日~ ノビエ5葉まで (但し収穫 50 日前まで)
	※ ワイドショット 1キロ粒剤	湛水処理 1kg	田植後 15 日~ ノビエ4葉まで (但し収穫 45 日前まで)

○JA 米（特別栽培米以外）基準

JA 米（特別栽培米以外）は、上記除草剤に加え下記の除草剤が使用できます。

残っている草	除草剤	10a 処理量	使用時期
水田雑草 (イネ科を除く)	2, 4-D アミン塩	落水処理 80~120g/水 70~100L	有効分げつ終止期 ~幼穂形成期前 (但し収穫 60 日前まで)
水田雑草 及び 広葉雑草	レブラスジャンボ	湛水処理 10パック	田植後 14 日~ ノビエ4葉まで (但し収穫 60 日前まで)

(3) いもち病防除

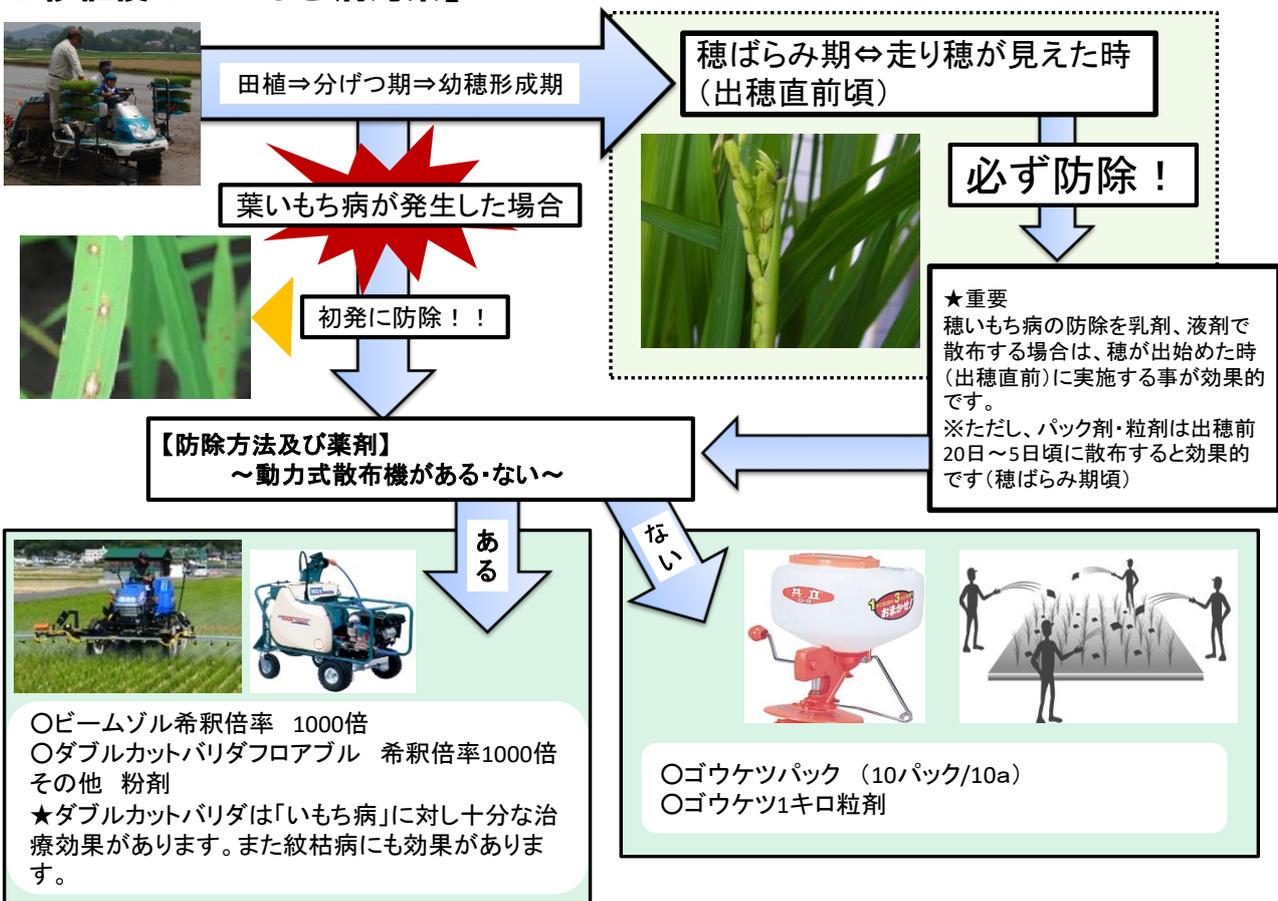
○いもち病防除：置き苗撤去、初発防除の徹底をお願いします。

散布時期	葉いもち 初発時		出穂直前(穂いもち・紋枯れ病対策)	
	薬剤名	散布量	薬剤名	散布量
粉剤・液剤体系	ビーム粉剤 DL	3～4kg/10a	ノンブラスバリダ粉剤 DL ※JA米のみ使用可	3～4kg/10a
	ビームゾル	1,000 倍液 100～150 ㍓/10a	ダブルカットバリダフロアブル	1,000 倍液 60～200 ㍓/10a

※ノンブラスバリダ粉剤 DL はJA米には使用できますが、特別栽培米には使用できません。

散布時期	葉いもちの初発時に散布。 穂いもちの予防には出穂 30 日前～5 日前散布(穂肥の頃)。		
粒剤体系	薬剤名	散布量	使用回数
	ゴウケツ1キロ粒剤	1 kg/10a	1 回
ゴウケツパック	10パック/10a		

○移植後の「いもち病対策」



※いもち病は紡錘形の病斑が特徴です。

(4) 紋枯病防除

○昨年、紋枯病が多発したほ場は、今年も多発する恐れがあります。

薬剤名	散布量	散布時期	対象病害虫
バリダシン粉剤 DL	3～4kg/10a	収穫14日前まで	紋枯病
モンセレンフロアブル	1,500 倍液 100～150ℓ/10a	収穫21日前まで	紋枯病
リンバー粒剤	3～4kg/10a	収穫30日前まで	紋枯病
ゴウケツ モンスター粒剤	3kg/10a	出穂5日前まで (収穫45日前まで)	いもち病、紋枯病、 稲こうじ病、ウンカ類

※バリダシン粉剤 DL は化学合成農薬としてカウントされません。

※ゴウケツモンスター粒剤は、穂いもちとあわせて紋枯病を防除することはできますが、JA米のみ使用できます。特裁米では使用できません。

(5) ウンカ類対策

ウンカに強い箱剤の普及により、被害が減少傾向なもの、発生が多くなると状況によっては、ウンカの防除が穂揃期防除のみでは補えなくなる可能性があり、その場合、幼虫期の防除が効果的となります。

特に収穫時期が遅い品種（ヒノヒカリ・モチ・飼料用米）は 9月中旬～10月中旬まで注意が必要です。

トレボン粉剤 DL、トレボン乳剤、エクシード粉剤 DL、エクシードフロアブル、スタークル豆つぶのいずれかで防除します。ウンカ類の発生状況や散布時期は後日稲作情報でお知らせします。



※ウンカの見方：稲の株元に濃い色の板（下敷き等）を付けて、その反対側から株元を2～3回叩きます。10株程度見ます。

【注意】

- ・スタークル豆つぶは「カメムシ類」にも効果があります。
- ・特にトビイロウンカの防除は、防除する時期（幼虫期）が重要です。詳細については、後日稲作情報でお知らせいたします。

(6) イネカメムシ・斑点米カメムシ類対策

○昨年、地域によってはイネカメムシが多発したことで、不稔粒が大量に発生して大幅な減収となりました。イネカメムシを見かけたら、出穂期と穂揃い期の2回、カメムシ防除を実施しましょう。

薬剤名	10a 当たり使用量	使用時期	対象病害虫
エクシード粉剤 DL	3 kg	収穫 7 日前	カメムシ類 ウンカ類
エクシードフロアブル	希釈倍率 2000 倍 散布液量 60~150ℓ		
スタークル豆粒	250 g		



昨年、早期コシヒカリの出穂期に加害したイネカメムシ

斑点米カメムシ類の対策

斑点米カメムシ予防のため、カメムシの居場所となる畦畔・草ムラの除草を徹底しましょう。

(出穂直前の草刈はカメムシを草ムラから水田に移すこととなります。草刈は出穂 10 日前頃までに終わらせましょう。)

農薬散布時の注意

- ◎散布前に必ず農薬ラベルを読み、使用基準を守る。
- ◎周辺作物や住宅などに飛散しないように細心の注意を払う。
- ◎散布後は必ず散布器具（タンクやホース）をきれいに洗う。
- ◎生産履歴を必ず記帳する。

(7) 穂肥

幼穂長、葉色を目安に施用します。

葉色の濃いほ場や、草丈の高いほ場は、穂肥の時期を遅らせたり施用量を減らしましょう。

(倒伏による減収、過剰生育による品質低下防止のため)

※葉いもちの発生が目立つほ場では、穂肥は施用しないで下さい。

○レンゲ米基準 (油粕で穂肥する場合)

幼穂長が0.2～0.5mmの時の葉色 (節間伸長開始を確認してから) カラスケール値	施用時期	油粕ペレット 施用量 (10a当たり)
濃い (4.0以上)	出穂前 28～25日頃 (幼穂長0.2～0.5mm)	色が落ちるまで数日待ち、量を減らして施用
普通 (4.0未満)		50 kg

※レンゲ米は、油粕を穂肥に使用するため通常の穂肥時期より1週間程早めに施用します。

【参考】穂肥時期の目安

品種	5月21日移植		5月28日移植		6月4日移植		6月11日移植	
	予想 出穂期	予想される 穂肥時期	予想 出穂期	予想される 穂肥時期	予想 出穂期	予想される 穂肥時期	予想 出穂期	予想される 穂肥時期
夢つくし	7月31日	7月3～6日	8月3日	7月6～9日	8月6日	7月9～12日	8月9日	7月12～15日

○特別栽培米基準 (ユークくん3号で穂肥する場合)

幼穂長が2～5mmの時の葉色 (カラスケール値)	施用時期	福岡嘉穂ユークくん3号 施用量 (10a 当り)	
		夢つくし、ヒビカ	元気つくし
濃い (4.0以上)	出穂前 20～18日頃 (幼穂長2～5mm)	施用しない	10 kg
やや濃い (3.5～4.0 未満)		15 kg	20 kg
ふつう (3.5以下)		30 kg	30 kg

○JA 米基準

(ベスト444、ワンショット追肥エムコート206で穂肥する場合)

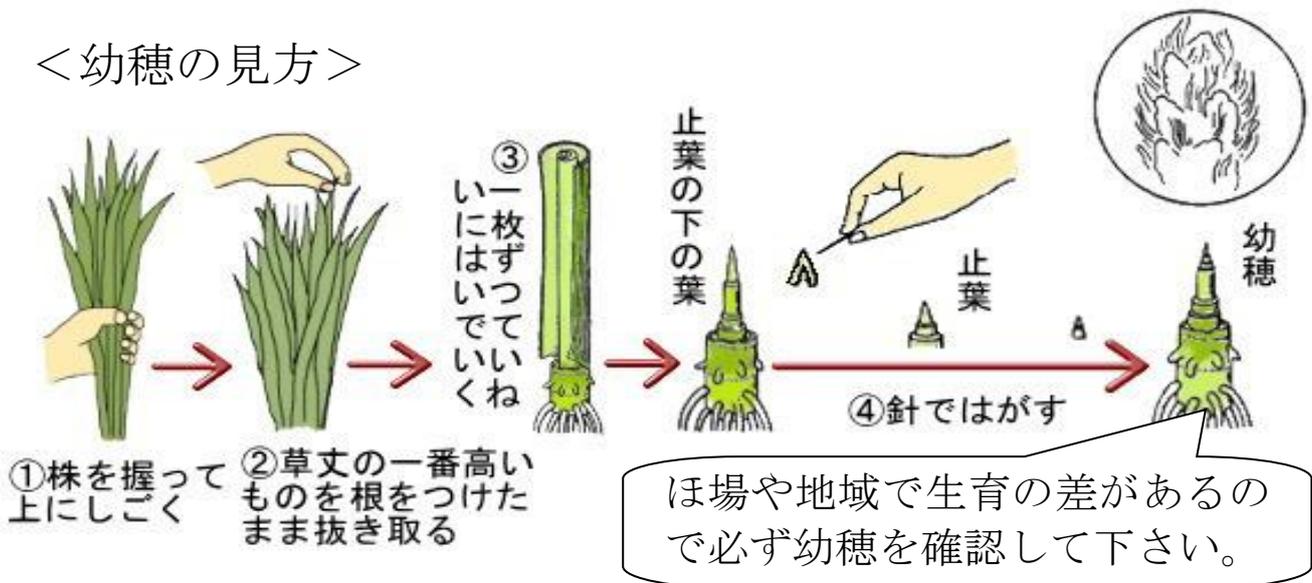
幼穂長が2～5mmの時の葉色 (カラスケール値)	施用時期	夢つくし・ヒビカリ ベスト444	元気つくし ワンショット追肥エムコート 206
濃い (4.0以上)	出穂前 20～18日頃 (幼穂長2～5mm)	施用しない	5kg/10a
やや濃い (3.5～4.0未満)		10kg/10a	10kg/10a
ふつう (3.5以下)		15kg/10a	15kg/10a

○特別栽培米及びJA米の穂肥時期を以下の通り予想していますので、参考にしてください。

品種	5月21日移植		5月28日移植		6月4日移植		6月11日移植	
	予想 出穂期	予想される 穂肥時期	予想 出穂期	予想される 穂肥時期	予想 出穂期	予想される 穂肥時期	予想 出穂期	予想される 穂肥時期
夢つくし	7月31日	7月11～13日	8月3日	7月14～16日	8月6日	7月17～19日	8月9日	7月20～22日

品種	5月28日移植		6月4日移植		6月11日移植		6月18日移植	
	予想 出穂期	予想される 穂肥時期	予想 出穂期	予想される 穂肥時期	予想 出穂期	予想される 穂肥時期	予想 出穂期	予想される 穂肥時期
元気つくし	8月12日	7月23～25日	8月14日	7月25～27日	8月17日	7月28～30日	8月20日	7月31日 ～8月2日
ヒノヒカリ	8月19日	7月30日 ～8月1日	8月21日	8月1～3日	8月23日	8月3～5日	8月26日	8月6～8日

<幼穂の見方>



注意

基肥一発肥料(有機エムコート355、エムコート2000等を使用している場合は、穂肥の必要は原則ありません。

・極端に葉色が薄い場合などありましたら、ご相談下さい。